

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2294201021		
法人名	株式会社スタッフ・アクタガワ		
事業所名	スタッフ・アクタガワ ハートライフ小鹿公園前 グループホーム		
所在地	静岡県駿河区小鹿927番地1号		
自己評価作成日	平成24年10月8日	評価結果市町村受理日	平成25年3月5日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.jp/22/index.php?action=kouhou_detail_2012_022_kami=true&jiyosyoCd=2294201021-00&PrefCd=22&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社システムデザイン研究所
所在地	静岡県葵区紺屋町5-8 マルシビル6階
訪問調査日	平成24年10月18日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

住宅街に立地し、昨年10月にオープンした新しい事業所です。併設する有料老人ホームや小規模多機能事業所と合同でカルチャー教室を開催し、書道、音楽療法、体操教室などを実施しています。
また、地域の夏祭りに参加したり、地域のボランティアによる太鼓のイベント等を開催しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

大学、高校、郵便局など地域資源が集積する場所に事業所はあります。毎月14日を地域貢献の日として清掃を定期的におこなっていて、近所の皆さんから声も掛けてもらい、そこから会話が始まることもあります。開設から1年を迎え、事業所のふれあい祭りも実現させています。豚汁の無料配布、クラウン・和太鼓の披露、ヨーヨー、JAの婦人部の野菜・赤飯即売等、各年齢層に向けた多様なメニューを用意し、職員とともに利用者も準備を手伝いました。徐々に各催しものは回覧板にも案内を入れてもらえ、地域からの協力も得られています。開設時には自治会の理解が得られにくいこともありましたが、1年の間に事業所のできることを一つひとつ

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが ○ 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	一階事務所入り口に理念を掲示し、チーム会議で再確認をしています。	毎月の会議で理念に沿ったケア提供がされているかについて職員間で確認する時間を設けています。傾聴など職員努力により、1年の間に親密感も増してきて、理念が浸透しつつあることを管理者も感じています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の夏祭りに出店したり、施設行事に地域のボランティアの協力を得たりと、交流を深めています。	開設から1年を迎え、事業所のふれあい祭りも実現させています。豚汁の無料配布、クラウン・和太鼓の披露、スーパーボールのゲーム、JAの婦人部の赤飯即売等、各年齢層に向けた多様なメニューを用意し、職員とともに利用者も準備を手伝いました。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	毎月14日を地域貢献の日として、清掃活動を実施しています。また、年1回ふれあい祭りを開催し、地域の方々に福祉施設について知っていただける機会を提供しています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	隣の小鹿公園への横断歩道信号設置要望を、自治会より上げていただきました。また、AED設置を報告しました。	地域包括職員、民生委員、地域代表者などをメンバーとして、隔月の開催が叶っています。成年後見人に参加してもらったこともあり、実際の話聞くことができ、有益だったとのことです。信号設置など、会議では地域の具体的な案件がでていて、事業所が地域の一員として迎えられていることが窺えました。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議に地域包括センターの職員や、民生委員に参加して頂いています。	事故・ヒヤリハットの状況について報告を上げてほしいとの地域包括からの依頼に速やかに応えるなど、地域包括との連携に努めています。市とのやりとりは法人本部で一括しておこなっていて、事業所はフェイスTOフェイスの関係はもっていません。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施設を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束ゼロ宣言をすると共に、身体拘束廃止委員会を設置し、身体拘束のケースについて検討しています。身体拘束予防の必要性については、委員会の内容を毎月の定例会議の中で全職員に申し送る事で伝えています。	四点柵など目に見えるものについてはもちろん、スピーチロックなど目に見えないものについても話し合うことを職員間、家族と職員の理解を深めています。また、身体拘束廃止委員会は、併設の他事業所の事例も確認でき、事業所の学習効果も高まっています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止マニュアルを作成し、防止に努めています。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	必要に応じて地域包括支援センターや日常生活自立支援事業等と連携を取るよう職員に周知しています。 また、センターでの年間研修カリキュラムの中にもそれらについての研修予定を組んでいます。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際には、重要事項説明書などを用いて説明し、理解・納得していただくため、署名・捺印をしていただいています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	偶数月の運営推進会議や年2回の家族会、お客様アンケートを通してご意見をいただき、検討に努めています。	また入所したばかりであるためここで安定した暮らしが続けば」といった祈りや感謝などが多く、要望はあがっていません。事業所ではできるだけ日頃の様子を伝え安心してもらいたいとの思いから「花水木便り」を発行しています。また、サービスへの満足度などをお尋ねするアンケートにも取り組んでいます。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月の全体会議、チーム会議などで職員の意見や、提案を聴く機会を設け、環境作りに反映しています。	参加者の多い全体会議ではストレートな意見が出にくい傾向にありますが、チーム会議では個々の意見が拾えています。また、勤務体制は個々の状況、要望に応えるよう調整に努めています。組織体制が手厚いため、センター長、管理者、リーダーと、相談者を選べるメリットもあります。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年度毎に目標管理シートを作成、四半期毎に評価面談を行い、賞与などに反映させています。また、職員毎の残業時間をチェックし、過重労働が無いように調整しています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	月に一度、本社教育チームにより介護技術の勉強会を実施し、全員参加しています。また、ステップ毎に合わせた研修も行っています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部研修の受講の機会に情報交換を行っています。また、地域にある近隣のGHと、地区の夏祭りやペタボード大会などを通じて交流をしています。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	二度の入居判定とお試し入居を実施し、不安が軽減できるように努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ケママネ等によるご本人、ご家族からの情報を確認し、アセスメントを行います。アセスメント結果から、ご家族が不安に感じている事などを聞き取り、予後予測をして、本人、家族との合意ができる様に努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居にあたっての初期プランを提案させて頂き、ご意見を伺い、本人、家族の必要としているサービスを明確にして、サービスの提供をしています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の生活歴や嗜好をアセスメントや会話の中で拾い上げ、ご利用者を歴史を持った尊厳ある人間としてとらえ、本人の強さを引き出して施設内でも自立した生活が送れるようにしています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人の施設内での様子を毎月ご家族に報告しています。また、生活上必要な決定事項はご家族に随時ご相談をして、介護の方針と一緒に決めていくという意識が持てるように努めています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	知人等の面会を介護の支障が無い限り受け入れる様にしています。また、ふれあい祭りの開催や地域行事への参加を通じて、地域住民との交流機会が持てる様に努めています。	希望の銘柄の新聞をとっている人、在宅からの趣味である詩吟や読書を続けている人もいます。家族も墓参りや外食など本人の要望に応じて連れだしてくれます。理美容は近所の店舗を利用する人が多く、1年を経過してなじみの店になりつつあります。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の相性や能力を把握し、日常生活やレクリエーションの中でお互いがコミュニケーションがとりやすい環境を作っています。この時には職員が必要に応じて間に入るようにしています。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ふれあい祭り等の行事に声かけして、関係を保てるようにしています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	生活歴や趣味嗜好など、その方の生きてきた歴史をご本人、ご家族より聞き取りをして本人との会話の中に入れて、今までの生活を思い出しながら、職員と一緒に生活している事が分かるようにしています。	利用者の言動が理解しにくい場合、成育歴や職業歴が職員の対応のヒントになっています。日々の発語は「介護経過記録」に記載し、嗜好はおやつ作りの中に反映させたり、犬好きな利用者には散歩の際に犬のいる場所に寄ったりしています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	お客様ご自身やご家族との会話から情報を収集し、ケアに結び付けられるように努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個別対応表やお客様毎の送りレポートの活用により、現状把握に努めています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月チーム会議を行い、カンファレンスの中で意見やアイデアを出し、介護計画に反映できるように努めています。	介護経過記録やカンファレンスでの職員意見を踏まえ、ケアマネージャーがプランを作成しています。職員は「プラン実施表」で実践を確認しています。今後もケアマネージャーが計画作成担当者を兼務して勤めていく予定です。家族とは面会時などの機会をとらえて、情報交換しています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の記録をパソコン上で管理し、職員間で情報を共有しています。また、ケアプラン実施表を活用し、ケアプランの意識付けを図っています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	通院介助、理美容手配やカルチャー教室、イベント参加などの取り組みをしています。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	自治会や民生委員の方々を運営推進会議に招き、住み慣れた地域の中で安心して暮らしていける支援に努めています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	GH主治医の往診が月2回あり、状況の報告・経過観察に加え、薬の処方をお願いしています。	事業所の協力医が月2回の往診をしていて、何かと安心なため、現在ではすべての人が利用しています。週1回の訪問看護があり、看護師から日常的に健康管理のアドバイスを受けています。基本的に、受診支援は家族にお願いしています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週に一度、訪問看護による医療連携を行っています。アドバイスを元にお客様の生活援助を行っています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	必要に応じ、お客様の情報を医療機関に提供しています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合の方針を説明し、ご家族より看取り看護についての同意書を頂いています。	看取りについてできること、できないことを家族に示し、書面での取決めもおこなわれています。日頃から訪問看護との連携をもっていることを活かし、家族の意向に応えることができるよう努める考えです。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	異常時、緊急時のマニュアルを作成し、研修を行っています。また、社外の救急・救命研修にも参加しています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防災訓練の実施。避難経路、緊急避難場所を事務所内に掲示してあります。	年2回の防災訓練は想定も替え、またAEDの操作方法も習得しています。併設の事業所と合同でおこなっていて、消防署の職員の指導も仰いでいます。もっとも起こりそうな想定とする「煙」対策について留意した取り組みがみられます。備蓄は本社で一括保管しています。	自治会からは事業所の訓練への参加を考慮くださるとの話ももらえているため、地域の防災訓練に参加することを期待します。

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	接遇は全体会議での研修の実施や、外部講師によるマナー研修を行い対応しています。	以前接客業を経験していた職員がおこなう講習と、外部講師がおこなうマナー研修と、学習の機会が潤沢に用意されています。馴れ合いの関係にならないように、利用者の人生を見つめることや年長者への尊敬の念をもつよう職員に示唆しています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	お客様と話し合い、自己決定や選択ができるようにしています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	出来る限り、寄り添いながら対話をし、ご希望に添えるよう努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	職員付き添いでの外出による理美容、または訪問理美容を実施しています。また、衣類は個人の持ち込みとして、ご本人が気に入った洋服を自分で選んでいただく様にしています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	お客様と共に席に着き、食事が楽しく取れるようにしています。片付けなども一緒に行っています。	食材業者から献立とともに3日分届いていて、調理は職員が手作りでおこなっています。玉ねぎの皮むきや食器洗いを手伝ってもらうこともあります。通常のメニューに加えて職員がそば打ちをして彩を添えたり、回転寿司など外に出向いて食事をすることもあります。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食材配送業者よりカロリー計算されたメニューの食事を提供しています。必要に応じキザミやペーストにしたり、禁止食材の設定をしています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを行い、出来るところは自分でやっていただき、できないところは職員が介助させていただいています。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	声かけ、時間によるトイレ誘導をしています。また、お1人で行けるお客様には任せています。	排泄チェック表をもとに3時間に1回をめやすとしていて、行けていない人には職員が声掛けし、誘導しています。現時点では現状維持をヨシとしていて、改善向上への取り組みは今後の目標のひとつとして持ちたいと考えています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分摂取や、適度な運動で対応しています。また、往診医、訪問看護と相談し薬による調整も行っています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	声かけとご希望により対応しています。基本は週3回入浴できるように支援しています。	日曜日を休浴日として、週3日をめやすとして入浴しています。一般の家庭の浴槽でマンツーマン対応をおこなっています。午前と午後1回ずつ湯を張り替え、また個人毎にかけ流ししています。しょうぶ湯やゆず湯など季節を感じてもらえるよう工夫しています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	お客様一人一人の睡眠パターンを把握し、日ごろのパターンに合わせた時間に就寝していただいています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬チェック表を用いて管理しています。また、薬の追加、変更があれば送りノートで伝達をするようにしています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	お客様一人一人が生活の中で役割が自然に出来上がっています。また、職員もその都度、声掛けをして出番を作るようにしています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外出したい気持ちを優先できるように心がけ、その場ですぐに対応できるように目標としています。	入浴のない日曜日を個別外出に活用して、ドライブに出かけています。ひな祭りには外食と雛人形の展示会を堪能するなど、季節を踏まえた取り組みを心掛けています。また、利用者の希望を確認するなかで、貸切バスで富士サファリパーク、第二東名ネオパーサを楽しむ旅行もおこなっています。	

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本は事務所で管理しています。外出時の買い物はお預かりした金額の中で、買い物ができるように支援しています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族より了承が得られれば、対応しています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	お客様にとって馴染みやすい空間を心がけています。	新築の新しさが残る白い壁に寄木細工を模した絵画がポイントになっています。キッチン是对面型で、低位置に設置しており、利用者と一緒に調理する工夫があります。全体に静かで落ち着いた雰囲気があります。温度・湿度計が備えつてあり、健康管理への配慮が視えます。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	会話が弾みやすいように、お客様の座席位置を考慮しています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に、馴染みのあるものをお持ちいただくようにお願いしています。	家族と相談しながら、在宅時のレイアウトやトイレへの動線を取り入れて配置しています。ベッド、カーテン、エアコンが備え付けられていて、自宅からは整理タンスや馴染みの椅子などが持ち込まれています。窓は掃出し型で掃除がやすく、日の光が満載です。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレ等、色のマークをつけてわかりやすくしています。		